

## 幼児の劇あそび集

及川ふみ

劇あそびは、幼児の表現活動の好ましいかたちの綜合体として楽しく遊ぶということと、多数の幼児たちが、この遊びに同時に参加することが出来るという、二つの大きい長所のある点から、幼稚園や、保育園などで、広くとり入れられている遊びの一つである。即ち子どもたちが、この遊びによって、しらずしらずの間に、言葉によっての表現活動を、豊かにすることにもなるであろうし、又音楽リズムなどの表現も、自然のうちにおりこまれてくる場合もある。又劇あそびの取材や、内容については、自然物の形態や、或は社会的の事象に対する理解や、認識を誘う機会を見つけることにもなる。又扮装や、背景、小道具その他の面で、幼児たちも絵をか

き、物を作ることもしばしばあって、創作的な表現活動の欲求を満足される場合も多い。

又劇あそびは、これに参加する人数が、多いという点では、協力の和とか、個人個人の

責任などの重要なことなどを、身近かに体験することによって、幼児の社会性を育てていいく点からも、重くみられるわけである。

本園では、以上の観点から、最近実際にころみた、劇あそび二十四種をここにまとめることとした。もとより専門的の知識にも乏しく、又その経験にも貧しいものであるが、これ等の劇あそびに参加した幼児たちの興味の深かった事などに力を得て、同志の御批判と御指導を仰ぐこととした。

一、取材について  
幼児たちのよろこぶ童話の中からとりあげたもの。（浦島太郎、舌切雀等）

二、配役について  
特定の幼児による配役でなく、だれでも、又幼児の希望にもとづき大きく配役の異動交代を本体とする。

四、準備について

背景、扮装、小道具等、劇あそびの準備の為に、多くの時間、多額の出費はさけて、手軽に、この遊びに入るということによつて、楽しいふんいきをかもし出すように留意した。

体育的な遊びを意図して、つくったもの。

（仲よし等）

行事をとり入れたもの。（クリスマス、おひなさま等）

二、目次について

二十四の目次の配列については、大体季節を考慮しておいた。したがつてその難易の点で第一期に配するよりは、第二期、或は第三期におかれる方が適当であるものもある。それは年令により、或はその時の幼児の発達の現状に即して、その言葉のやりとり、その他を調節することにしたい。